

2019(令和元)年度 第1回「Salon De 大学コンソーシアム大阪」開催報告

「SOGI(性的指向・性別自認)の多様性をめぐる国内外の動向と学生支援」

日時 : 2019(令和元)年9月25日(水)18:00~20:00(情報交換会 20:00~21:00)

会場 : キャンパスポート大阪 ルームB(大阪市北区梅田1-2-2-400 大阪駅前第2ビル4階 西側)

講演者 : 東 優子 氏

大阪府立大学 大学院 人間社会システム科学研究科 教授

地域保健学域教育福祉学類 教授・アクセスセンター長補佐(SOGI 担当)

申込者数 : 23 大学 43 名(うち会員外 7 大学 7 名)

参加者数 : 20 大学 35 名(うち会員外 5 大学 5 名)

企画・運営 : 大学コンソーシアム大阪研修部会推進委員会

2019 年度第 1 回目の Salon De 大学コンソーシアム大阪(愛称: サロン・ド・コンソ)が、東 優子氏を講師に迎えて開催された。以下、その概要を紹介する。

今年度初回の開催にあたり、司会進行の清水 栄子氏(大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員/追手門学院大学 基盤教育機構/教育開発センター 准教授)より、サロンの趣旨説明があった。続いて、開会挨拶として、浅田 晋太郎氏(大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員長/学校法人 大阪女学院 理事)から、今回の講演テーマをと講師の紹介があった。



東氏からは、まず性的マイノリティ、LGBT、SOGI などの用語の定義について、丁寧でわかりやすく解説された。なかでも SOGI は、国内ではまだ耳慣れない用語だが、Sexual Orientation(性的指向、つまり誰を性愛の対象とするか)と Gender Identity(性自認、つまり自分の性別をどのように捉えるか)という 2 つの言葉の頭文字をとった言葉である。LGBT が「誰」に言及した用語であるのに対して、SOGI は、性別や人種・民族などと同じく、「何」を理由とする差別・偏見が問題なのかを考える上で重要なキーワードであり、国際社会で使用されているという。

次に、同氏の所属する大阪府立大学の取り組みについて紹介された。同大学では、2017 年 4 月に「大阪府立大学 SOGI の多様性と学生生活に関わるガイドライン」を、翌年には教職員全員を対象としたガイドラインを制定している。また、啓発用ポスターやグッズの開発、FD 研修として講演会を開催するなどのほか、学生団体「フダイバーシティ・プロジェクト」が学生・教職員に性の多様性を広めるためのパンフレットを作成したりするなど、全学的な取り組みを進めているところだという。



LGBT の T(トランスジェンダー)については、出生時に割り当てられた性別と本人が自認するジェンダーが異なることから、日常生活におけるさまざまな問題が起こりうる。彼らの直面する問題として、男女別の制服やトイレ・更衣室の使用などがあり、文科省の冊子『性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について(教職員向け)』(2016)には、児童生徒に対する学校の配慮事例が紹介されている。同様の問題は大学でも学生、教職員に起こりうることであり、紹介されている対応事例を参照しつつも、画一的ではなく、個別事例に応じた柔軟な対応が重要である、と解説された。

また、マイノリティであることによるストレスからの自殺関連経験率の高さ、同性愛者への人権侵害が問われた「府中青年の家」裁判、一橋大学(法科大学院)で起こった「アウトティング事件」などについても取り上げられた。講演の締めくくりとして、SOGI を理由とする差別や偏見を「人権問題」として捉える必要性や多様な人々が包摂される教育環境整備の重要性が強調された。



講演の受けての質疑応答は、サロン参加者からあらかじめ寄せられた質問を中心に取り上げ行われた。「レインボーフラッグに対する学生の認知状況」、「LGBTQ への理解を深める教育実践の事例」、「学生対応の際の失敗事例の紹介」が質問として上げられた。身の回りで起こっている状況や疑問などを直接講師に聞くことができ、今回のテーマについてより具体的に共に考える機会となった。

プログラム終了後、参加者には「参加証」が配付された。



その後、講師を囲んで情報交換会が開催された。終始、和やかに情報共有や意見交換を行う姿が見られ、参加者間のネットワーク構築の場としても活用された。

以上